

子ども多文化共生センター通信 (テラたま通信)

Multicultural Children's Center News

発行元 子ども多文化共生センター (Tel. 0797-35-4537)

発行日 2018(平成30)年3月22日(木)

ホームページ <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>

第66号



テラたま
(イメージキャラクター)

◆日本語指導について 芦屋市立浜風小学校での支援の様子をご紹介します。

「これはいくらですか？」

パン屋の店員役に尋ねる児童は、来日から半年が経とうとしていました。この日の授業は「お買い物ごっこ」。友達のお誕生会のためにサンドウィッチを作り、ケーキを購入するという設定でした。

買い物の場面に入る前に、授業者が「サンドウィッチはどんな形のパンで作りますか?」「トマトは何色ですか?」と物の形状等を問いかけ、この日の授業までに学習した形容詞や助数詞等の確認が散りばめられていました。

買い物の場面では、パンを指して「これはいくらですか?」と尋ねることはできても、「サンドウィッチ用のパンがほしいです。」と知りたいことを尋ねるといことは、まだ難しいようでした。

授業で特に印象的だったことは、児童の「意欲」です。写真やカードを見ると児童は思わず笑顔になっていました。「お買い物ごっこ」の時に限らず、児童は常に前のめりになって授業に参加していました。それは、児童の意欲を引き出す授業者の「工夫」が至るところに施されていたからです。

日本語を学ぶとき、子どもが日本語を学習することに目的意識が持てないような場面を見ることが少なくありません。改めて、子ども自身が学ぶことの意味を感じられる授業づくりをすることが大切だと、今回の授業を参観して実感することができました。



買い物で使うフレーズを書きます。



小銭で払います。



ケーキを買います。



千円札で払いますよ。

耳よりサイト

◆日本語初期指導教室の在り方『生き生きと学校生活を送るために』

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/gimukyoiku/shokishidoreef.html>

日本語初期指導教室の効果的な運営の在り方について、愛知県教育委員会がリーフレットや指導計画案にまとめられています。日本語初期指導が必要な児童生徒に、「日本語による日本語指導」を積極的に行うため参考になさるのはいかがでしょうか。

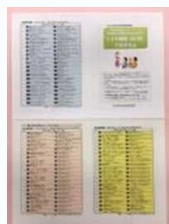
・リーフレット No.1
『生き生きと学校生活を送るために』

学校での日本語初期指導の計画(第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期)と運営上の配慮事項を示しています。



・リーフレット No.2
『120時間(60日プログラム)』

日本語指導を必要とする児童生徒が、当初の3か月間、在籍学級で授業を受けながら、1日2コマ(90分)の時間を在籍学級から取り出して日本語初期指導を受ける計画を提示しています。



◆子ども多文化共生ボランティアバンクの活用

「ゲストティーチャー」として子ども多文化共生ボランティアを活用されました。

- ・阪神特別支援学校 「異文化交流」
高等部1年生の生徒が事前に調べたバングラディシュの文化について発表した後、ゲストティーチャーがバングラディシュの教育の様子を紹介し、楽しい交流の時間をもちました。
- ・神戸市立二宮保育所(中央区保育所職員研修委員会) 「子育て文化」
神戸市中央区保健所職員研修で、今後の保育所の仕事で生かしてもらえよう、ゲストティーチャーが中国の子育てについて紹介し、簡単な中国語会話をレッスンしました。
- ・県立多可高等学校 「修学旅行前研修」
香港とマカオへ修学旅行に行く前に、日本とは異なる文化や慣習について生徒がゲストティーチャーから話を聞いて学びました。

センターでは外国人児童生徒等への日本語指導や通訳、翻訳、母語指導、異文化紹介など多彩な活動ができるボランティアを登録し、学校や市町教育委員会等の依頼により紹介しています。兵庫県で生活する外国人児童生徒を支援したり、子どもたちに「豊かに共生する心」をはぐくんだりするために、子ども多文化共生ボランティアバンクをぜひご利用ください。

◆第8回 サポーターネット 2月25日 於)子ども多文化共生センター

18名のサポーターが二つのグループに分かれ、子どもたちがどのようなことに困り感を持っているか共有し、サポーターとしてどのような手立てや取り組みが望ましいかを考えました。「高校受験のためにどうしたよいか」「人前で着替える習慣がなく怖い」「板書ができない」「社会見学に行っていないので授業が理解できない」などで子どもたちは困っていました。

〈サポーターの感想〉

- ・子どもはどこでどんな時にどう困っているか、参加者全員で話し合っただけでここまで詳しい現場の話が聞くことができたのは大変貴重な時間でした。
- ・今日の意見交換を通して、生徒本人、親、担任の先生などともっと話し合うようにしようと思いました。
- ・困っていることに共感でき、解決方法がいろいろあるなと感じました。



Information

●マンガ絵本「モニカ&フレンズと日本の小学校」



ブラジルで最も人気がある漫画家マウリシオ・デ・ソウザさんによる支援プロジェクトで作られた絵本です。人気マンガの主人公「モニカ」とその仲間たちが日本の小学校に通い、学校生活を紹介していきます。在日ブラジル人をはじめ、外国にルーツのある子どもたちが、文化の違いを乗り越えて日本の学校へスムーズになじめるよう応援します。

入手したい方は、マウリシオ・デ・ソウザ プロダクションズ・ジャパン 佐々木さん(090-2598-0613)までご連絡ください。センターでは、この絵本を貸し出します。



子ども多文化共生センター 芦屋市新浜町1-2

TEL: 0797-35-4537 FAX: 0797-35-4538 E-mail: mc-center@hyogo-c.ed.jp

ホームページから様々な情報を発信しています。 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>

外国人児童生徒の支援、子ども多文化共生教育に関わるることなどについて、お気軽にご相談ください。